

若者がゆるやかにつながり 「じしん」を育む地域共生イベント活動 (自身・自信)

社会福祉法人協議会

居場所づくり団体

自治会・町会

一般社団法人

特別出張所



おおた福祉ネット大森エリアでは、20代の若者の孤独感が強く、困りごとがあっても相談できる人がいないことに着目し、若者や地域の人がゆるやかにつながり、役割がもてるイベントを若者支援機関や就労移行支援事業所、居場所づくり団体との連携・協働で開催しました。

大森地区 地域福祉コーディネーター 江連・山中・塚本・自見

こころ彩る ほくほく祭 in 大森

(令和6年度 大田区社会福祉法人協議会 大森エリアイベント)

目次

1. 大田区社会福祉法人協議会とは
2. 実施の経緯
3. 実施内容
4. アンケート結果
5. イベントの感想
6. 多様な主体との連携
7. まとめ
8. 今後の展望

1. 大田区社会福祉法人協議会とは①

この協議会は、地域における福祉課題の解決に向け、区内41の社会福祉法人（※）が連携して地域公益活動に取り組むプラットフォームです。

専門分野の異なる法人が力を合わせて多様な地域課題の解決を目指しています。

（※）社会福祉法人とは
社会福祉法人は、社会福祉法にもとづき社会福祉事業を行うことを目的として設立されている法人です。公益性の高い非営利法人であり、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実に効果的かつ公正に行っています。

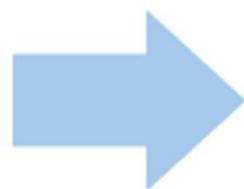
1. 大田区社会福祉法人協議会とは②

大森エリアでは下記の17法人が連携・協働しています。

- ・ 婦人の園
- ・ やまて福祉会
- ・ 大田幸陽会
- ・ 響会
- ・ 有隣協会
- ・ 松風会
- ・ 池上長寿園
- ・ 東京蒼生会
- ・ つばさ福祉会
- ・ わかば
- ・ 恒明会
- ・ 島田福祉会
- ・ 東京愛成会
- ・ 立正福祉会
- ・ 東京コロニー
- ・ 同愛会東京事業本部
- ・ 大田区社会福祉協議会

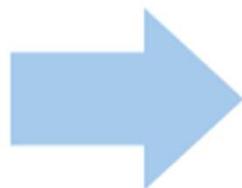
2. 実施の経緯① - 令和6年度大森エリア活動

法人・施設情報
カタログ



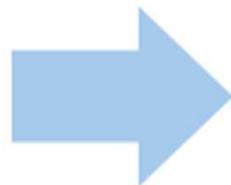
各法人・施設のイベント情報を
まとめたカタログづくり

法人間研修



①福祉の他分野の業務を知る
②法人間の交流を通じた日常業務
での連携づくり

食を通じた支援

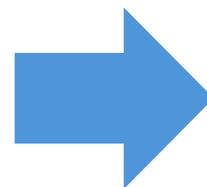


以降のスライドにて説明

2. 実施の経緯② - 食を通じた支援の検討

令和5年度下半期より、 来年度の企画を検討

- ①食を通じた支援のニーズ把握
- ②社会福祉法人が取り組むメリット
 - ・取り組みに理解を得やすい
 - ・「地域にあってよかった」と思ってもらえる



令和6年度より、
食を通じた支援
(フードパントリー)
の実施に向けて
具体的な検討を開始

2. 実施の経緯③ - 若者の孤独・孤立に着目

打ち合せのなかでの意見

- 孤立しがちな若者や地域とのつながりが少ない勤労者が地域につながるきっかけにしたい。
- 困っていることがあるが相談に行きづらい人にも来て欲しい。
- 日常にもつながりが継続する企画にしたい。
- 制度の狭間においてアプローチできない人に届けたい。



【参考】早稲田大学 石田光規, 「3年間の調査の振り返り」, 人々のつながりに関する基礎調査 -令和3年、4年、5年- 調査結果に関する有識者による考察
「孤独感が『しばしばある・常にある』と答えた人が最も多いのは、2021年から23年いずれにおいても、20代、30代であり、その次に40代、50代が多い」
また、「いずれの年も30代から50代までで相談相手のいない人が多くなり、70歳以上の高齢層の孤立者が少ない」。

2. 実施の経緯③ - 若者の孤独・孤立に着目

孤立しがちな若者や地域に暮らす人たちが、ゆるやかに他者や必要な情報・支援につながるきっかけをつくるため、
大田区若者サポートセンター フラットおおたとの連携・協働をすすめました。



「フラットおおた」ホームページより抜粋

2. 実施の経緯④ - 会議・打ち合わせの経過①

会合	日時	人数	議題
第1回食を通じた支援への 取り組み検討	5月27日(月) 10:00~11:30	8名	大森エリア法人協によるフードパントリー の実施に向けて
第2回食を通じた支援への 取り組み検討	7月9日(月) 10:00~11:30	12名	開催日時・場所・広報・申込方法・内容の検 討
第3回食を通じた支援への 取り組み検討	8月5日(月) 10:00~11:30	8名	目的の変更、プログラム、レイアウト 役割、広報の検討
大田区若者サポートセンター フラットおおた 打ち合わせ	8月8日(木) 13:45~14:35	3名	イベント当日の備品の貸し出し、若者が楽し める内容、若者向け講座について
一般社団法人 Spirit 打ち合わせ	8月15日(木) 14:00~15:00	4名	法人協イベントの紹介とチラシ作成の協力 依頼
区地域力推進部 地域力推進課 青少年担当 打ち合わせ	8月22日(木) 13:15~14:15	5名	法人協の取り組み紹介、青少年担当の意 向・若者ニーズの聞き取り
第4回食を通じた支援への 取り組み検討	8月29日(月) 10:00~11:30	11名	法人アンケート結果共有、イベントタイトル・ プログラム・レイアウト・役割分担・広報チラ シの掲載内容の確定、法人協PR・情報提供 の検討、来場者アンケートの確認

2. 実施の経緯④ - 会議・打ち合わせの経過②

会合	日時	人数	議題
一般社団法人 Spirit との打ち合わせ	9月4日(水) 16:00~17:00	5名	チラシデザインの作成
山王二丁目町会 会長との打ち合わせ	9月11日(水) 15:00~16:00	5名	イベント企画説明、広報協力依頼 (入新井特別出張所)
入新井地区町会長会議	9月17日(火) 12:30~13:15	2名	掲示板へのチラシ掲示依頼 (入新井特別出張所)
アトレ大森との打ち合わせ	10月1日(火) 16:45~17:00	7名	チラシ布置、デジタルサイネージ掲載依頼
第5回食を通じた支援への 取り組み検討	10月10日(木) 10:00~11:30	10名	当日運営の最終確認
第6回食を通じた支援への 取り組み検討	11月5日(火) 13:00~15:00	11名	振り返り、今後の取り組み検討 第2回情報交換会での報告分担

3. 実施内容 - 概要

イベント名 『こころ彩るほくほく祭in大森』



日時 令和6年10月19日（土）
15時～19時

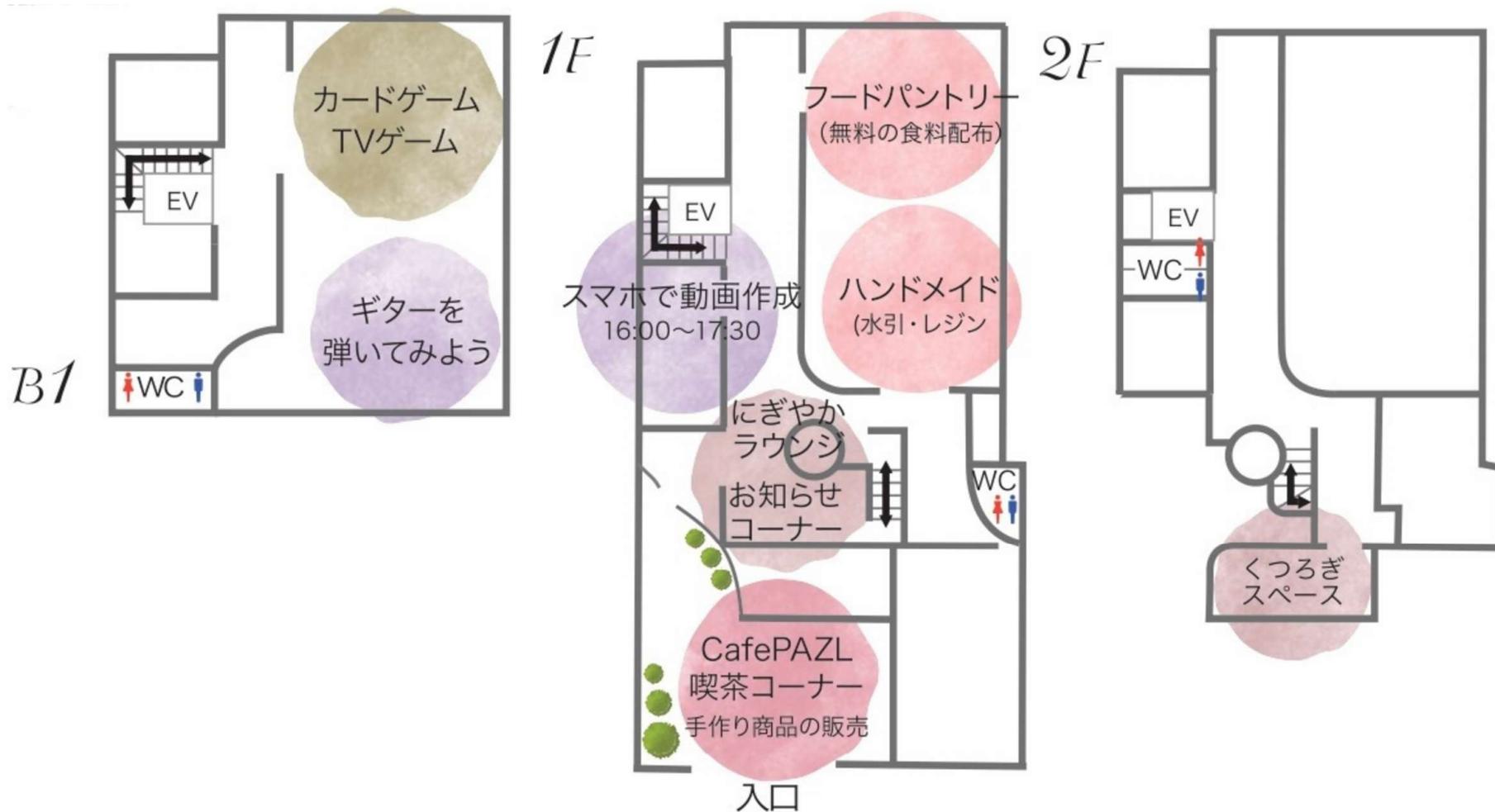
場所 大森福興教会
（社会福祉法人 婦人の園）

目的 若者たちが他者とゆるやかに
つながり、社会福祉に関する
情報や支援に関わり、社会
参加のきっかけになる場

来場者数 76名



3. 実施内容 - 会場レイアウト



3. 実施内容 - 多様な主体との連携

イベント実施にあたり、以下の機関や団体と連携・協働をしました！



大田区社会福祉法人協議会 大森エリア
食を通じた支援グループ活動法人

大田幸陽会

婦人の園

やまて福祉会

響会

関係機関・団体

- 大田区若者サポートセンターフラットおおた（認定特定非営利活動法人育て上げネット）
- じぶんの居場所まほろ場
- 就労移行支援事業所Spirit
- 入新井地区11町会（掲示170か所）
- 新井宿地区3町会（掲示33か所）
- 株式会社アトレ 大森店

3. 実施内容 - 広報の協力①

就労移行支援事業所Spirit

チラシデザインの作成

デザイン費用は通所者の工賃に。

令和6年度 大田区社会福祉法人協議会(おおた福祉ネット)大森地区イベント

ココロ 彩るほくほく祭 in 大森

若者・地域の皆さまへ

みんなでワイワイと楽しんだり、一人で黙々とマイペースに過ごせたり、そんなお祭りがあったらいいじゃない。

★全館的のつなゆきボードに「ほそつ」ヒーローお祭ってください。

- ★わいわいゲームコーナー (カードゲーム・TVゲーム) (B1)
- ★生活支援やボランティア等お知らせコーナー (1F)
- ★にぎやかラウンジ (1F)
- ★講座 『スマホでできる動画作成』 16:00~17:30 (1F)
- ★Cafe PAZL (1F)
- ★パズル 手作り商品の販売 (1F)
- ★ハンドメイド (※リ・レジン) (1F)
- ★フードパントリー (無料の食料配布) ※無くなり次第終了 (1F)
- ★講座 ギターを弾いてみよう! (B1)
- ★くつろぎスペース ※ひとり静かにマイペースでのんびり過ごせる空間です。 (2F)
- ★Cafeでは観音品類の自家焙煎コーヒーと国産小麦の手づつくりパンを販売♪

日時 2024年10月19日(土) 15:00~19:00

会場 大森福興教会(社会福祉法人婦人の園) 山王2-12-10 JR大森駅西口から徒歩3分

★当日運営ボランティア募集中です!

主催 大田区社会福祉法人協議会(おおた福祉ネット)大森地区
 協力 大田区若者サポートセンターフラットおおた
 (連絡先 大田区社会福祉協議会 大森地区 地域福祉コーディネーター Tel.03-3736-2266)

入新井特別出張所・新井宿特別出張所

自治会・町会掲示板、区設掲示板へのチラシ掲示



入新井特別出張所に山王二丁目町会会長や町会長会議でのPR協力の場を調整いただきました。

3. 実施内容 - 広報の協力②

アトレ大森

チラシ布置、デジタルサイネージ掲示



勤労者にアプローチするため「アトレ大森」に協力を依頼しました。

報道機関（東京新聞）

プレスリリースによる新聞記事の掲載

報道機関・関係機関 各位

令和6年10月3日

大田区社会福祉法人協議会（おおた福祉ネット）大森地区
社会福祉法人大田区社会福祉協議会

若者たちが「一人きりではない」と感じられる ゆるやかなつながりの場
令和6年度 大田区社会福祉法人協議会（おおた福祉ネット）大森地区イベント
ココロ彩るほくほく祭 in 大森

大田区社会福祉法人協議会（おおた福祉ネット）大森地区では、20代の若者たちの孤独感が強いことが内閣府の「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」で明らかになっていることや、暮らしの困りごとがあったとしても相談につながりにくいことに着目し、地域の若者たちがゆるやかに他者や必要な情報につながるきっかけづくりとして下記イベントを開催します。

- 日時 令和6年10月19日（土）15時～19時
- 場所 大森福興教会（社会福祉法人婦人の園）
大田区山王2-12-10
- 目的 地域で孤立しがちな若者たちが、地域で安心して暮らせるように他者とゆるやかにつながれる場、福祉に関する情報や支援につながる場、社会参加のきっかけとなる場を行い、社会福祉法人が地域であってよかったと思ってもらえるようにする。
- 内容 障がい者福祉施設によるカフェ、自主生産品の販売、スマホでできる動画作成講座、ハンドメイド、フードパントリー、カードゲーム、TVゲーム、くつろぎスペース、情報提供コーナー
- 主催 大田区社会福祉法人協議会 大森地区（※）
婦人の園・やまて福祉会・大田区青年会・聖会・児童協会
協賛会・佳上共済会・東京聖生会・つばき福祉会、わかば
福明会・島田福祉会・東京聖成会・立正福祉会
東京コロニー・同業会東京事業本部・大田区社会福祉協議会
（※）大田区社会福祉法人協議会とは
区内で社会福祉施設等の経営など社会福祉事業を行っている社会福祉法人（41法人）で組織しています。この協議会は、地域における福祉課題の解決に向けて、各法人が連携して地域公益活動に取り組むプラットフォームで大森地区では、17法人がネットワークを構築し、活動しています。
- 協力 大田区若者サポートセンターフラットおおた

【本件の連絡先】
社会福祉法人大田区社会福祉協議会
おおた地域共生ボランティアセンター 地域共生担当 江漢・山中・塚本・自見
144-0051 東京都大田区西瀬田7-49-2 電話：03-3736-2266 ファクス：03-3736-5590 mail：kyousei@ota-shakyo.jp

3. 実施内容 - ブース内容①

大田幸陽会

大田区手をつなぐ育成会を母体とする法人。現在、区内で障害福祉サービス等を経営し、障がいのある方の「はたらく・まなぶ・いきる」を地域の中で支援している。

製品の販売



感想

- ・対象の若者よりも地域の方々が多く訪れた印象があった。
- ・お菓子の販売がイベントの目的に合致しているのか不安があったが、協働できることに取り組むのは楽しくて良い刺激となった。

3. 実施内容 - ブース内容②

婦人の園

障がい者が地域の中で「共に生きる」社会を築くことを目的とし、個性や思いに寄り添った「形にとらわれない」生活支援・自立支援に努めている。静岡県で知的に障がいがある方の支援施設「インマヌエル」を運営し、法人本部は大田区にある。

Cafe PAZLによる飲食販売



来客数：71名、販売数：143個

感想

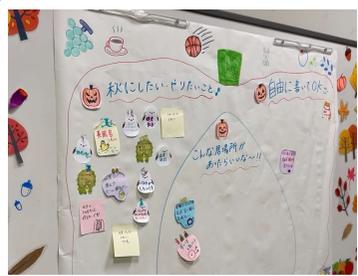
- 福祉の仕事を知ってもらう機会になった。
- 来場者が長くこの場に留まっていたのが特徴的だった。

3. 実施内容 - ブース内容③

やまて福祉会

出会ったすべての方々が尊厳を取り戻し、地域での生活を安心して送ることが出来るよう福祉サービスの質の向上と貧困問題の解決に取り組む。大田区生活再建・就労サポートセンターJOBOTA、大田区ひきこもり支援室SAPOTAを大田区より受託し、運営している。

くつろぎスペース



感想



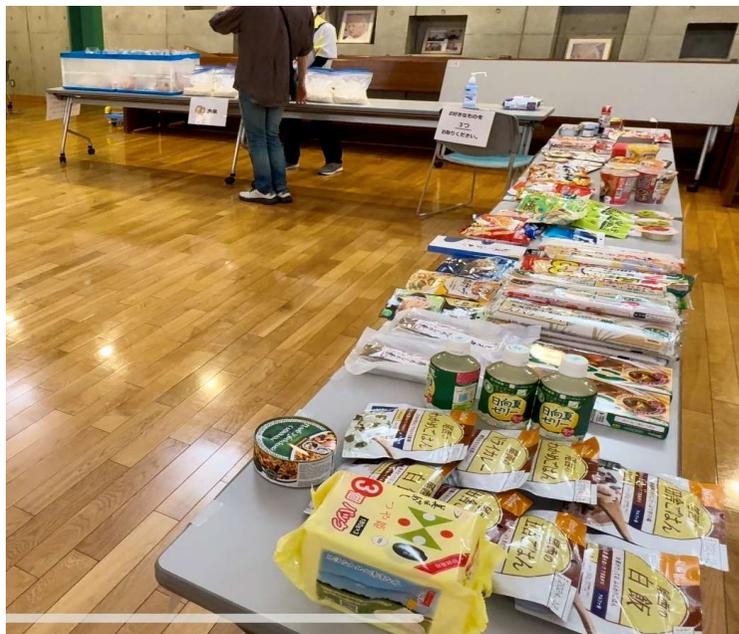
- ・当日は利用者も運営ボランティアとして参加した。
- ・ひとりでもくつろげる場を想定していたが「話したい」という来場者が多かった。
- ・他団体の居場所を利用するメンバー同士が話している場面があった。
- ・交流している場面を見ることができてよかった。

3. 実施内容 - ブース内容④

響会

地域住民の皆様と共生することを目的とし、法人の理念【安心】と【暖かさ】の提供を軸に、「社会貢献」ができる法人を目指し開設。特別養護老人ホーム、地域包括支援センター、シニアステーション、ショートステイ、デイサービスなどを運営している。

フードパントリー



利用者：33名（アンケート記入後に食料配布）

感想

- お米の仕分けが大変だったがハンドメイドを担当していた若者たちが手伝ってくれたのでイベント開始前から心が温まった。
- 実際に利用した若者たちから「助かった」という声を聞き、やって良かったと思えた。

3. 実施内容 - ブース内容⑤

大田区若者サポートセンター フラットおおた

大田区が手がける相談支援・居場所スペース。子ども・若者が利用できる学校でもない第3の居場所として悩みごとの相談や、行くところに困ったときに立ち寄れるオープンスペースを用意している。

ハンドメイド (レジンアクセサリー作り)



スマホでできる動画作成講座



3. 実施内容 - ブース内容⑤

大田区若者サポートセンター フラットおおた



感想

- 当日は利用者も運営スタッフとして参加。利用者からは「あっという間に終わった。すごく楽しかった。」との声があった。
- イベント終了後、3名の来場者から問い合わせがあり、つながる機会となった。

3. 実施内容 - ブース内容⑥

大田区社会福祉協議会

地域の皆さまや関係機関・団体などと連携・協働のもと、ボランティア活動の推進や判断能力が低下した方の権利擁護、シニア世代の就労支援等を行っている。

にぎやかラウンジ・情報提供コーナー



じぶんの居場所
まほろ場 (※)



感想

参加しやすい入り口付近で、
いつもとは違う開放的な明るい場所
で参加させていただき、
利用者さんがとても喜んでいました。

じぶんの居場所
まほろ場

(※) 悩みや孤独を抱える人の第三の場所として活動中。
この日は出張で居場所を開催！

4. アンケート結果 - 来場者アンケートより

回答数：10件

▽ あなたの年齢

選択肢	件	%
10代	0	0
20代	3	30
30代	1	10
40代	1	10
50代以上	5	50

▽ 人とのつながりの薄さを感じることはあるか？

選択肢	件	%
強く感じている	4	40
時々感じている	5	50
あまり感じない	0	0
全く感じない	1	10

5. イベントの感想



来場者

- キーホルダーづくりが楽しかったです。とても詳しく優しく教えてくれました。
- フラットおおたのスタッフや利用者内での知り合いがいたので安心できた。



参加ボランティア

- ほくほく祭の空気感がよかったです。雰囲気がやわらかい。居心地がよかったです。
- コミュニケーションをとることが苦手だと思っていたが「こんな自分でも役に立つんだ！」と充実感があった。

運営スタッフ

- お互いの顔が見える関係が作られ、楽しいイベントを実施できたことが良かったと思います。
- 多くの若者たちが準備や運営にボランティアとして頑張っている姿が印象的でした。

5. イベントの感想 - 参加法人の声①



大田区生活再建・就労
サポートセンターJOBOTA
(社会福祉法人やまて福祉会)
佐藤所長

多様な主体との連携の必要性を実感！

法人間で協働することで他法人の事業内容に関する理解が深まり、今後の連携が取りやすくなった。また、法人としてできることの幅も広がった。

5. イベントの感想 - 参加法人の声②



大田区若者サポートセンター
フラットおおた
(認定特定非営利活動法人育て上げネット)
桜庭センター長

利用者の姿に感動！

ボランティアとして来場者に丁寧に説明する姿や、終わった後の達成感に満ちた表情など普段とは違う一面が見られてよかった。

6. 多様な主体との連携



大田区社会福祉法人協議会 大森エリア
食を通じた支援グループ活動法人

大田幸陽会

婦人の園

やまて福社会

響会

関係機関・団体

- ・ 大田区若者サポートセンターフラットおおた
（認定特定非営利活動法人育て上げネット）
- ・ じぶんの居場所まほろ場
- ・ 就労移行支援事業所Spirit
- ・ 入新井地区11町会（掲示170か所）
- ・ 新井宿地区3町会（掲示33か所）
- ・ 株式会社アトレ 大森店

多様な主体との連携・協働により、若者以外の世代の来場が見られた他、法人として出来ることが広がるなど、新たな取り組みが展開できました。

7.まとめ

■若者の自己肯定感が高まる機会に

普段、人と接する機会の少ない若者が来場者と接したことで、自分の役割を持ち自己肯定感が高まる経験が得られました。

■ミドル世代（※）が参加できる居場所づくりが課題

今回実施したイベントは、孤立しがちな若者や地域とのつながりが少ない勤労者を主な対象として取り組みました。

しかし、若者に入らない40代以上の方が通える居場所は少ないため、若者に限らずミドル世代も参加できる居場所づくりが今後の課題です。

■さらなる多様な主体との連携と協働へ

今後は社会福祉法人以外に、民生委員児童委員や自治会・町会、学校などとも連携し、皆で協力しながら一緒に地域の課題に取り組みます。



（※）ミドル世代・・・30代後半から50代の方

8. 今後の展望

だれもが住みやすい地域を目指して



社会福祉法人大田幸陽会
勢古 常務理事
(大森エリア幹事法人)

日頃接することのない人たちが集うことで、新たな気づきや交流が生まれることを期待しています。そのためにも、それぞれ得意なものを持ち寄り、その機会づくりをしていきたいと思っています。

地域福祉コーディネーターと一緒に
大田区を盛り上げていきましょう！！

ご清聴ありがとうございました。